

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

1. 社会文化学専攻 博士後期課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）（2023年度以前入学者用）

流動化する現代社会の実態と変化の方向性を、国家や地域社会といったマクロな視点と、家族やその構成員としての人間というミクロな視点の双方から分析、研究することで、社会と思想を研究する諸領域を融合させ、今後の社会の動向を理解・予測し、あるべき姿を提言できる人材を育成したいと考えています。

社会文化学専攻の博士後期課程では、上記の内容に加え、独創的な研究を実行する研究能力、または高度に専門的な業務を遂行しうる能力を身につけ、他分野の研究者や実務者等と協働して諸問題の解決に向けて尽力できる修了生に学位を授けます。

- 1.適切な研究倫理のもとで学問を追究し、専攻分野に関する研究能力を身につける。
- 2.高度に専門的な職業等に必要な能力を身につける。
- 3.柔軟な思考力、的確な判断力を身につける。
- 4.発信する力を身につける。
- 5.多様な他者を尊重し能動的に協働し、地域および国際社会に貢献する力を身につける。
- 6.生涯にわたり、学問的関心を発展させ、主体的に探究し続ける姿勢をもつ。
- 7.独創的な研究を実行する研究能力を身につける。
- 8.高度に専門的な業務を遂行しうる能力を身につける。
- 9.他分野の研究者や実務者等と協働して諸問題の解決に向けて尽力できる力を身につける。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

2. 社会文化学専攻 博士後期課程の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）
（2023年度以前入学者用）

流動化する現代社会の様相は、特定の学問分野からだけではとらえ切ることができません。その実態と変化の方向性を理解するには、国家や地域社会といったマクロな視点と共に、家族やその構成員としての人間というミクロな視点の双方から分析することが必要です。社会文化学専攻では、社会学、心理学、文化人類学、地域文化研究（中国、フランス）、法学といった社会と思想を研究する諸領域を融合させ、今後の社会の動向を理解・予測し、あるべき姿を提言するための新しい知の体系を構築してゆくことを目指しています。

社会文化学専攻の博士後期課程では、提供される講義や演習を通して自ら定めたテーマに必要な学識と高度な研究能力を身につけるために、コースワークとバランスに配慮して教育課程を編成しています。ここでは、思考力・判断力を伸ばすと同時に自発性・創造性を発揮することが目指され、国際的に発信する能力を養います。

博士論文の作成を研究活動の中心として重視し、学会の研究水準を十分に踏まえつつ独創性のある論文を作成するため、研究指導および論文作成指導の機会は十分に保障されます。なお、年次の始めに毎年、研究計画書を提出させ、正副指導教員との綿密な打ち合わせを行い、研究方針を共有します。社会文化学専攻の院生は、社会調査の手法に関する授業を取得し、「専門社会調査士」の資格を得ることも可能です。

幅広い学識と多角的な視点を身につけるため、他大学院との単位互換、委託聴講制度を活用することもできます。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

3. 社会文化学専攻 博士後期課程の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）（2023年度以前入学者用）

流動化する現代社会の様相は、特定の学問分野からだけではとらえ切ることができません。その実態と変化の方向性を理解するには、国家や地域社会といったマクロな視点と共に、家族やその構成員としての人間というミクロな視点の双方から分析することが必要です。社会文化学専攻では、社会学、心理学、文化人類学、地域文化研究（中国、フランス）、法学といった社会と思想を研究する諸領域を融合させ、今後の社会の動向を理解・予測し、あるべき姿を提言するための新しい知の体系を構築してゆくことを目指しています。

社会文化学専攻博士後期課程では、社会の動きや人間の生き方に対して深い関心をもち、深い教養と柔軟な思考力、旺盛な探求心と深い洞察力、豊かな人間性と高い倫理性を備えているか、研究課題に対する明確な意識と研究を実行する具体的な計画性を有しているか、博士後期課程終了後には社会に貢献することを目指しているかのそれぞれを、学生を受入れる際の基準として審査するとともに、博士前期課程で達成した成果を吟味したうえで、今後研究者として自立して研究を継続する能力を有しているかも審査します。

また、上記に加え、1. 学位授与方針(1)に示す修士課程・博士前期課程修了程度以上の十分な学識と研究能力を備えていることが必要です。

受け入れの判定については、外国語の試験では、関連分野に関する外国語文献の読解において、その外国語知識・専門知識および翻訳技能、さらには思考力・判断力とともに日本語の表現力を測定します。また口述試験においては、研究に対するより本質的な主体性や、今後独立した研究者として、意味のある研究を遂行していくための研究計画を、具体的・効率的に構築する思考力・判断力を測定するとともに、多様な人々と協働して学び、時には研究全体をリードしていく態度を培っていける人材かどうかを判定します。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

1. 社会文化学専攻（人間関係研究領域）博士後期課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）（2024年度以降入学者用）

「現代社会とそこに生きる人間」をめぐる諸問題について批判的に考え、社会調査の方法論を用いて実証的に分析し、得られた知見を広く発信する能力を涵養することを目指します。こうした学びを通じて、社会の動向を的確に理解し、そのあるべき姿を提言できる人材を育成することを目指します。次のような力と資質を身につけることを期待します。

1. 社会心理学、社会学、文化人類学のいずれかを中心とした専門的な研究と、それらを横断する学際的な学びを通じて、「現代社会とそこに生きる人間」をめぐる諸問題に対する幅広い学識を身につけること。
2. 専門的な社会調査の方法に習熟し、収集したデータにもとづいて新たな知見を得る力を身につけること。
3. 生涯にわたり学問的関心を発展させ、主体的に探究し続ける姿勢と技能を身につけること。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

2. 社会文化学専攻（人間関係研究領域）博士後期課程の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）（2024年度以降入学者用）

人間関係研究領域は社会心理学、社会学、文化人類学によりカリキュラムが構成されています。これらの領域に関するコースワーク科目（各領域の特論）により専門的な知識を獲得するとともに、それらを横断し幅広い学識を養うことで、学際的に「現代社会とそこに生きる人間」をめぐる諸問題について探究する視点と力を身につけることができます。そして、リサーチワーク科目（論文作成演習）を通じて、研究能力を育成し博士論文を作成する上で必要とされる指導を受けることができます。

人間関係研究領域では毎年年初の始めに研究計画書を提出させ、正副指導教員との綿密な打ち合わせを行い、研究方針を共有します。幅広い学識と多角的な視点を身につけるため、他大学院との単位互換、委託聴講制度を活用することもできます。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

3. 社会文化学専攻（人間関係研究領域）博士後期課程の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）（2024年度以降入学者用）

人間関係研究領域では「現代社会とそこに生きる人間」をめぐる諸問題について批判的に吟味するとともに、社会調査の方法論を用いて実証的に分析し、得られた知見を広く発信する能力を涵養することを目指します。入学者には、研究の視点と社会調査スキルの土台となる素養として、以下の2点を求めます。

1. 社会心理学、社会学、文化人類学のいずれかあるいは複数の領域について、専門的な知識を身につけていること。
2. 専門社会調査士の資格を取得していること。あるいは社会調査にもとづく研究成果を有すること。

受け入れの判定に際して、外国語の試験では、関連分野に関する外国語文献の読解において、その外国語の知識や専門知識および翻訳技能、さらには日本語による表現力を確認します。専門科目の試験では、希望する領域の専門知識を確認します。また口述試験においては、研究に対する主体性や研究計画を具体的に構築する思考力、そして判断力を確認するとともに、多様な人々と協働して学ぶ態度を培っていける人材かどうかにも判定します。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

1. 社会文化学専攻（比較文化研究領域）博士後期課程の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）（2024年度以降入学者用）

流動化する現代社会の実態と変化の方向性を、国家や地域社会・法律・報道といったマクロな視点と、そこに生きる個人としての人間というミクロな視点の双方から分析、研究することで、社会と思想を研究する諸領域を融合させ、今後の社会の動向を理解・予測し、あるべき姿を提言できる人材を育成したいと考えています。

比較文化研究領域の博士後期課程では、上記の内容に加え、独創的な研究を実行する研究能力、または高度に専門的な業務を遂行しうる能力を身につけ、他分野の研究者や実務者等と協働して諸問題の解決に向けて尽力できる修了生に学位を授けます。

- 1.適切な研究倫理のもとで学問を追究し、専攻分野に関する研究能力を身につける。
- 2.高度に専門的な職業等に必要な能力を身につける。
- 3.柔軟な思考力、的確な判断力を身につける。
- 4.発信する力を身につける。
- 5.多様な他者を尊重し能動的に協働し、地域および国際社会に貢献する力を身につける。
- 6.生涯にわたり、学問的関心を発展させ、主体的に探究し続ける姿勢をもつ。
- 7.独創的な研究を実行する研究能力を身につける。
- 8.高度に専門的な業務を遂行しうる能力を身につける。
- 9.他分野の研究者や実務者等と協働して諸問題の解決に向けて尽力できる力を身につける。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

2. 社会文化学専攻（比較文化研究領域）博士後期課程の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）（2024年度以降入学者用）

流動化する現代社会の様相は、特定の学問分野からだけではとらえ切ることができません。その実態と変化の方向性を理解するには、国家や地域社会、法律、報道といったマクロな視点と共に、そこに生きる個人としての人間というミクロな視点の双方から分析することが必要です。比較文化研究領域では、地域文化研究（中国、フランス）、法学、報道、言語といった社会と思想を研究する諸領域を融合させ、今後の社会の動向を理解・予測し、あるべき姿を提言するための新しい知の体系を構築してゆくことを目指しています。

社会文化学専攻の博士後期課程では、提供される講義や演習を通して自ら定めたテーマに必要な学識と高度な研究能力を身につけるために、コースワークとバランスに配慮して教育課程を編成しています。ここでは、思考力・判断力を伸ばすと同時に自発性・創造性を発揮することが目指され、国際的に発信する能力を養います。そして、リサーチワーク科目（論文作成演習）を通じて、研究能力を育成し博士論文を作成する上で必要とされる指導を受けることができます。

比較文化研究領域間関係研究領域では毎年年次の始めに研究計画書を提出させ、正副指導教員との綿密な打ち合わせを行い、研究方針を共有します。

博士論文の作成を研究活動の中心として重視し、学会の研究水準を十分に踏まえつつ独創性のある論文を作成するため、研究指導および論文作成指導の機会は十分に保障されます。なお、年次の始めに毎年、研究計画書を提出させ、正副指導教員との綿密な打ち合わせを行い、研究方針を共有します。

幅広い学識と多角的な視点を身につけるため、他大学院との単位互換、委託聴講制度を活用することもできます。

『専攻別3つのポリシー』
〈学位授与方針〉〈教育課程の編成・実施方針〉〈学生の受け入れ方針〉

3. 社会文化学専攻（比較文化研究領域）博士後期課程の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）（2024年度以降入学者用）

比較文化研究領域博士後期課程では、国際社会の動きや人間の生き方に対して深い関心を持ち、深い教養と柔軟な思考力、旺盛な探求心と深い洞察力、豊かな人間性と高い倫理性を備えているか、研究課題に対する明確な意識と研究を実行する具体的な計画性を有しているか、博士後期課程終了後には社会に貢献することを目指しているかのそれぞれを、学生を受入れる際の基準として審査するとともに、博士前期課程で達成した成果を吟味したうえで、今後研究者として自立して研究を継続する能力を有しているかも審査します。

また、上記に加え、1. 学位授与方針(1)に示す修士課程・博士前期課程修了程度以上の十分な学識と研究能力を備えていることが必要です。

受け入れの判定に際して、外国語の試験では、関連分野に関する外国語文献の読解において、その外国語の知識や専門知識および翻訳技能、さらには日本語による表現力を確認します。専門科目の試験では、希望する領域の専門知識を確認します。また口述試験においては、研究に対する主体性や研究計画を具体的に構築する思考力、そして判断力を確認するとともに、多様な人々と協働して学ぶ態度を培っていける人材かどうかにも判定します。